

# 質の高い介護サービスの提供に向けて

～介護勉強会の取組みからみえた現状と課題～

施設名：介護老人保健施設 オリーブ園

発表者：桑江 貴英

仲宗根 哲也 佐伯 尚樹

## 【はじめに】

介護とは、何らかの生活に障害のある人が、これまでの普段の生活に戻ることを支援する専門職である。当施設においても「利用者の望む人生や生活を豊かにするために支えます」というミッションを掲げ、多職種と連携し利用者の在宅復帰や望む暮らしの実現に取り組んでいる。少子高齢化の急速な進行、認知症高齢者の増大などから、平成19年社会福祉士及び介護福祉士法の「入浴・排せつ・食事の介助」という文言が「心身の状況に応じた介護」へと定義規定が改正された。生活のなかで多様な課題を抱えた利用者に対し、質の高い介護サービスを提供するために、これまで実施した介護教育の取組みと、そこから見えた今後の課題について報告する。

## 【研究方法・アンケート方式】

### ① 勉強会実施期間

2020年4月～2021年12月(1年8か月)  
当法人介護事業部の主任へ、ヒアリングと事業所の特徴に合わせた教育内容を検討した。  
また、当法人必須勉強会を含んだ年間教育スケジュールを作成し、毎月ミーティングの日に合わせて勉強会を実施した。

### ② 対象者

当法人介護事業所に勤務する介護職員95名。

### ③ アンケート集計

2021年12月24日～2022年1月7日まで、勉強会についてアンケートを実施した。

## 【アンケート結果】

- 総数：95名 n=70 回収率：73.7%
- ・とてもよい n=70 ⇒ 21名(30.0%)
  - ・よい n=70 ⇒ 43名(61.4%)
  - ・あまりよくない n=70 ⇒ 6名(8.6%)
  - ・まったくよくない n=70 ⇒ 0名(0%)

毎月、各部署のミーティングに合わせて勉強会を実施したため参加率は高かった。また、各部署の専門分野においては、所属している看護師や職員へ勉強会担当を依頼することで、より事業所特有の課題に取り組めた。

## 【考察】

### ① 勉強会内容

今回のアンケート結果から、質の高い介護サービスを提供するために、学びの理論をどのような場面で実践に取り組むのか等を、普段のケア場面から考える事ができたと思われる。根拠のある介護実践について、介護過程の展開を通して利用者を捉え支援することの重要性が理解できたのではない。

### ② 年間スケジュール

2020年度は、若干の変更があったが予定通り遂行できた。2021年度は、新型コロナの影響により勉強会を中止せざるを得ないことが多かった。

### ③ 全体考察

今回のアンケート結果から、通所系・地域密着系サービスではチームでの情報共有ができており、学ぶ意欲や職員のやりがい、働きがいに繋がっている。入所では、職員一人ひとりのアセスメントスキルは高くとも、多職種や職員間の情報共有、連携が不十分で、統一したケアの提供に至っていないことが課題だと考察する。

## 【まとめ】

介護サービスの提供は、利用者自身の思いを確認することから始まる。質の高い介護とは、その思いに寄り添い、利用者が自己実現できるように主体的に考えチームで支援することだと考える。

今回のアンケートを通して、実務の現場では、その時起こっている課題に対しての気づきと共有が、より実践的な学びとなることと考える。年間スケジュールから「させられている学び」を、主体的な「学びたい」という考えに行動変容してためには、内発的動機付けが必要である。そのため、演習やワークを通じたチーム作りの勉強会の開催、事例を通じた実践から気づく学びを提供していくことが課題である。学びから得られる実践的な内容を体感することで、介護専門職として働くことへの意欲や誇り、日々のモチベーションにつながるよう取り組んでいきたい。